

道ゆく人々を 見守つてきた 恵比須様



街

道の最後に訪れたのは「教宗寺きょうそうじ」。ここは商館医シールボルトが江戸参府の折、昼食をとって休憩した場所として知られている。このお寺にはシールボルトの他にも象と象使いが泊まったというエピソードもあり、興味深い。ガイドの織田さんは矢上宿の魅力をこう話す。「私は諫早の記録が書かれた『諫早日記』千二十七冊を四十年かけて二回読みました。しかし、まだまだ分からないことがたくさんあります。例えば、安政四年の記録には矢上宿の旅館りやうの数は五軒とありますが、江戸参府の折には二百名もの人々が訪れますから、五軒ではまかないきれません。多くの人たちはどこに宿泊したのか：まだそうしたことも分かっていないんです。でもその分

教宗寺



からないということが歴史のロマンなんですね」。街道沿いを歩いていると、いくつもの恵比須様に出会う。宿場町の繁栄を願って祀られたという恵比須様はとても大切にされている。赤いきれいな前掛けや、供えられた季節の花々からそれが伝わってくる。江戸時代からこのまちを見守ってきた恵比須様だけが長崎街道のすべてをご存じなのかもしれない。

まち歩きの後、一息しようと国道沿いにある「矢上珈琲の杜」を訪ねた。オーナーの松尾史朗まつのおしろうさんはコーヒー好きが高じて、脱サラして店を始めたという。こちらでは四十種類以上の豆を販売しているが、そのすべてが高品質のスペシャルティコーヒー。理由を尋ねると「趣味

からスタートしたので、とにかく美味しいコーヒーを味わってほしいと思って」と笑顔が返ってきた。店にはノンカフェインコーヒーや地元でとれた生姜しょうがを使って自社開発したジンジャーコーヒーなど、珍しいものも並ぶ。中でも気に入ったのは十五種類あるというオリジナルブレンド。「雲仙を想う」「長崎の夜空に」「矢上農園」：など、ネーミングを見ただけで手が伸びてしまう。店の喫茶スペースで「クリアブルー」をいただいた。甘みがありながらも澄み切ったさわやかな味わいは、まさに至福の一杯。「コーヒーは生き物です」と語る松尾さんの表情は穏やかそのものだ。美味しさは人が作るものだと心から思う。

矢上珈琲の杜
長崎市矢上町20-6 TEL.095-800-2382
矢上珈琲の杜 検索

